

第二十五回「三土新明会」

こけし開拓史 (其ノ貳)

- 蒐集家は何を開拓したか -

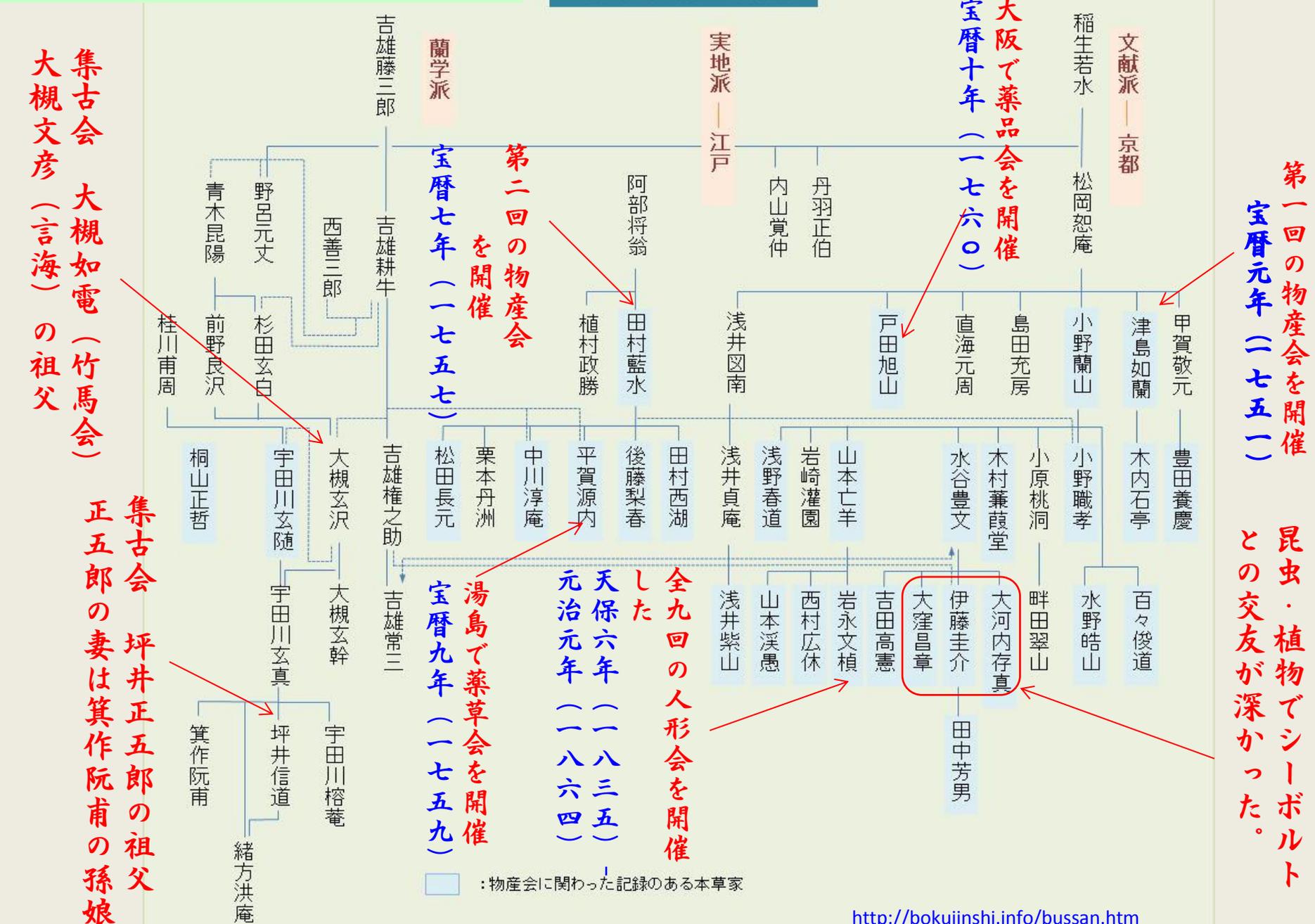


June 17, 2017

橋本 正明

博物学 = こけし蒐集の源流

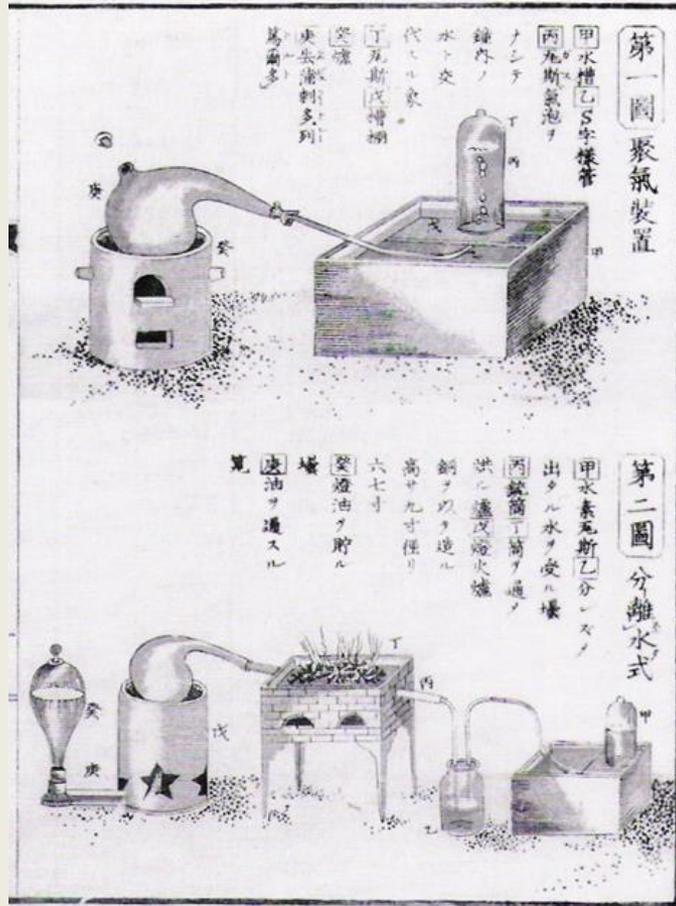
本草学者の系譜



宇田川榕菴

植物学、化学等を初めて書物にして紹介した人物
化学、酸素、水素という翻訳語を作った

舍密開宗



本年は早稲田大学工学部応用化学科は創立100周年に当たります。
その記念企画で今秋 早稲田中央図書館展示室で舍密開宗を含む図書が展示されます。

本草学

蘭学派

和学派

実地派

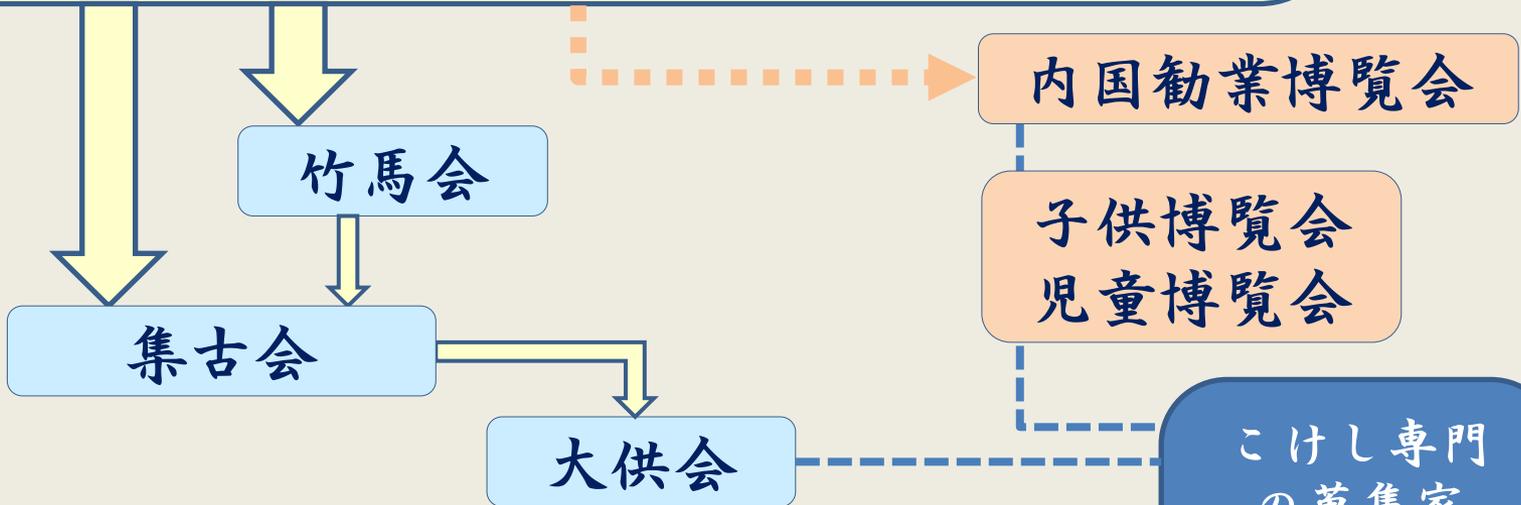
文献派

人形会

物産会

薬品会

本草会



久留島武彦、西沢仙湖、林若樹、広瀬辰五郎（いせ辰）
他に佐野健吉（品川山三）、松下正影

こけし専門
の蒐集家

天江富弥

⋮

蒐集家の時代（鹿間時夫の分類）

- ① 天江・武井時代
- ② 橘、米浪時代
- ③ 深沢、渡辺時代

今日の話 蒐集家は何を開拓したか

- ① 竹馬会・集古会時代
- ② 天江富弥（明治32年生）
- ③ 武井武雄（明治27年生）
- ④ 石井真之助（明治26年生）
- ⑤ 橘文策（明治31年生）
- ⑥ 深沢要（明治37年生）
- ⑦ 渡辺鴻（明治37年？生）
- ⑧ 三期のブームの背景

① 竹馬会・集古会時代の蒐集家

こけし専門の蒐集家以前

へうなるの友・初編

奥州一關こけし人形

へうなるの友・五編

磐城双葉郡浪江町の玩具こけし這子



へうなるの友・貳編

磐城双葉郡浪江町邊のコケシ這子

産地名で識別。

興味は産地であり、作者名までの追求はなかった。

竹馬会・集古会時代の蒐集家

集古会でも作者名までの興味はなかった

集古会誌 明治三十七年甲辰卷之三

磐城國雙葉郡浪江町コケシボコ



第四十七回出品目録 (三十七年甲辰)

- 日本石部古代土器調査報告
色丹島木彫人形 一俵 全
純球製親子人形 二俵 全
伊勢島土人形 二俵 全
紅面地人形 二俵 全
産物林地越神像 一俵 全
支那製人形 一俵 全
辰喰人形 一俵 全
北アムラカマラン十州コトコト西野土人形 一俵 全
所製人形 一俵 全
メギコ掘出象体土器 一俵 全
全製人形 二俵 全
アノタカ、コシノ土人形形の簡属したる概 一面 全

- 大縮細形 鹿野武蔵製 伯野鍋川 地平
調製骨焼人形 清水 晴風
親之製漆草人形並同所用淺草人形兩印 全
江戸時代一丈人形 十數個 全
大坂生五人形 全
阿波徳島人形 全
松島人形 全
長崎人形 全
右代奈島彫刻人形 全
宇治赤ノ木人形并同製様付 全
昔時の馬多人形並人形之像 全
備後尾道にて獲たる美人土偶 或ハ博多産か
吉備人形 全
土偶對天 産地不詳或ハ大坂産か 全
海防期 全
東福寺三國土製一、根柢製根付一、労働人形の母
型一、岡山作根付一、古代炊豆櫃一、河内布藝像
一、
昔人形類 全
大坂、静岡、徳島、盛岡、津輕、弘前、一岡、鹿内、佐



磐城國雙葉郡浪江町コケシボコ
奈良村園一勝作根付人形 全
七阿彌道人作三平二邊の根付 全

- 支那製人形水入 盛京省深澤縣にて某氏の獲られしもの
上野公園講水堂子首製骨守人形 三個 向中
淺草人形 全
江戸時代一文人形 七個 全
伊勢山田親子人形 全
有馬人形類 全
奥州一關とけし人形 全
小兒遊戯衣裝人形 江津 染魚
甚下師衣裝人形 全
岩女赤羽子遊衣裝人形 全
中國製親子美人人形 全
加賀川關五人歌子掛 全
棒立起上小人形 全
徳島七福神 全
松島信濃守 全
平手黒髪骨古代風 全
明土產令人形 全
御福の土人形 全
先土偶所製清水時風武の奉右衛門人形并中野製の

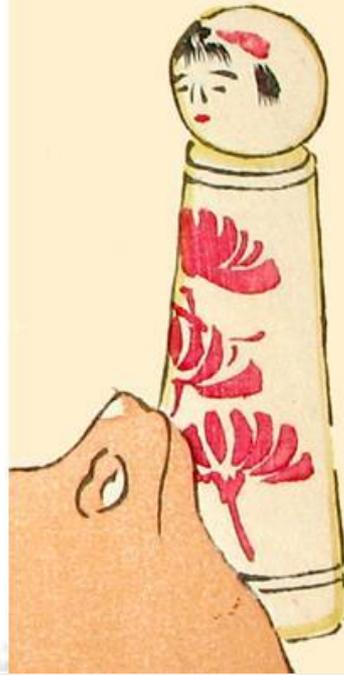
奥州一關とけし人形

第四十七回出品目録

産地名で識別。
興味は産地であり、作者名までの追求はなかった。



奥州一の関まで
驚々ココシバウコ



〈うなるの友・初編〉
明治24年

磐城國雙葉郡浪江町ココシボコ

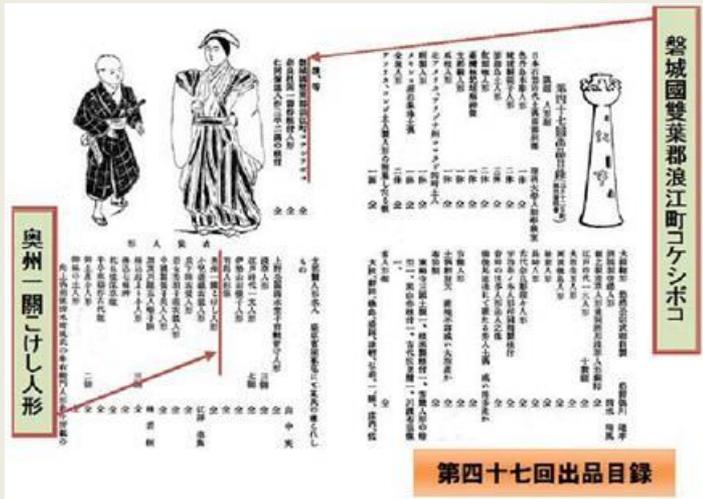
第四十七回出品目録

奥州一関こけし人形

明治10年代～24年の宮本惣七

<http://kokeshiwiki.com/?p=1740>

Figure 1: A detailed catalog page for kokeshi dolls. It features a title '奥州一関こけし人形' (Okuzumi Ichikuan Kokeshi Ningyo) and a subtitle '第四十七回出品目録' (47th Exhibition Catalog). The page includes a list of items with their names, descriptions, and prices. There are also illustrations of a man and a woman in traditional attire, and a small drawing of a kokeshi doll. The text is arranged in columns, with some items marked with '全' (complete) or '半' (half).



磐城國双葉郡浪江町コケシ這子

Kokeshi Wikiではこれを
佐藤重松として紹介

<http://kokeshiwiki.com/?p=393>



表

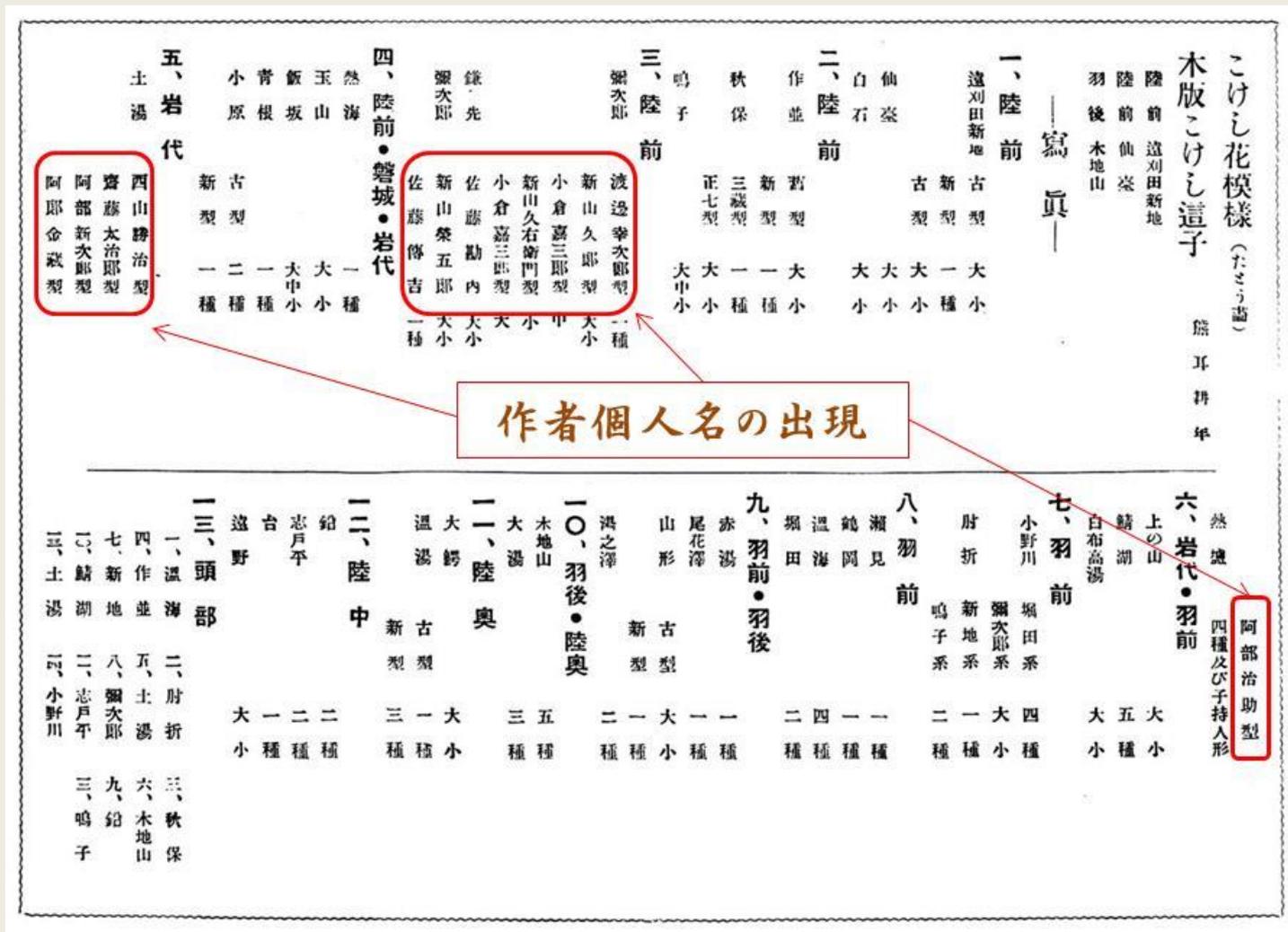


裏

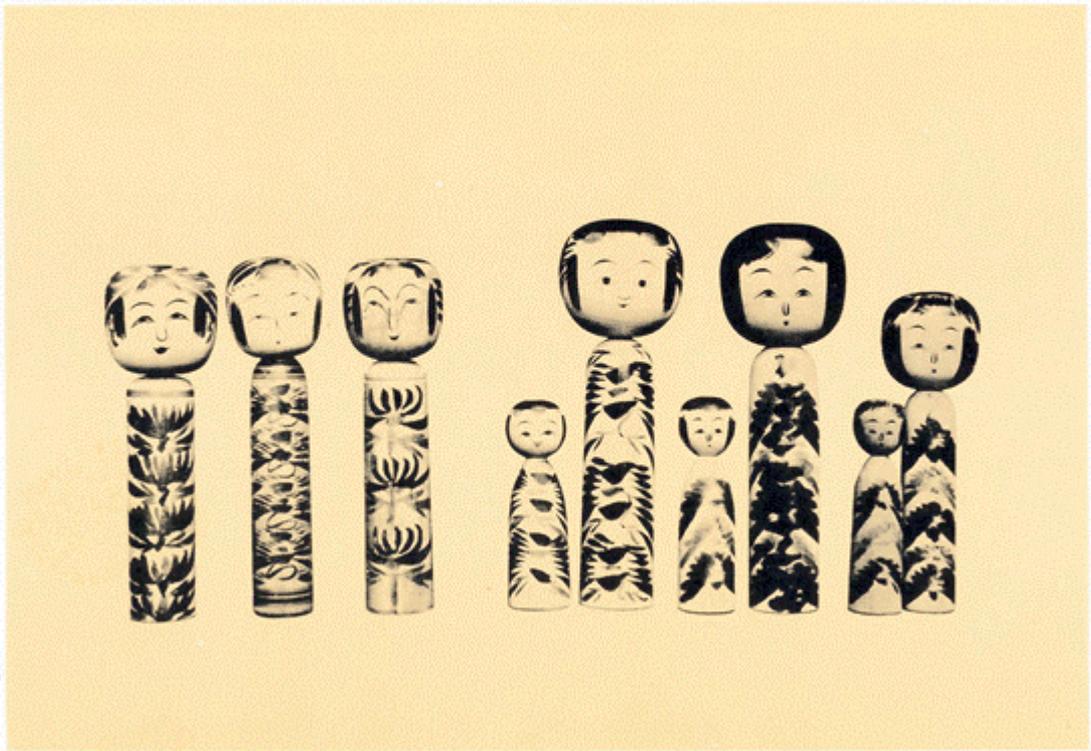
西田記念館蔵
浪江こけし

② 天江富弥が開拓したもの

こけし専門の蒐集家の出現



天江富弥 <こけし這子の話>



羽前
七

図版目次で作者個人名が書かれていなくても、大部分の図版解説には作者個人名が記載されている

小の川

— 山形縣南置賜郡三澤村湯元 —

大樽川の清流に縁れる小野川温泉に産する、こけしは二つの系統から來てゐます。一つは、彌次郎系で蔵作蔵るもの、一つは堀田系で岡崎久太郎蔵の作るものです。

そして、右二系統のこけしが自然に融合して、まるで同じ感じのものとなつて了ひました。堀田系の頭をまつ黒に染めた點、彌次郎系の頭部に轆轤手法を用ひた點、異ふと言へば異ふ様なものです。いづれも、誠に可愛ゆいもの、たゞ引蠟によつて、いくらかセルロイドの感じないと申されません。

岡崎久太郎は堀田のトヤ木地店より出てた人です。

肘折

— 山形縣最上郡大藏村肘折 —

こけし會の主事三原良吉氏が本年五月單身積雪を冒して同地を訪れ溜く調査し得たもので、このこけしも二系に分れてゐます。乃ち新地系、佐藤周助翁蔵（六十才）の作るものと、鳴子系、奥山運七翁蔵（六十四才）の作るものとて、外に三十年程前迄尾形政治外数名の木地職が營業してゐたをうてす。運七翁は陸前築館より來た鳴子系の木地師肘折傳藏について業を習得した由て、現在つくるこけしも鳴子の匂ひが充満してゐます。

こけし専門の蒐集家が現れた天江富弥の時代から、こけしはその産地と作者が議論されるようになった。

天江富弥の略歴



本名は「天江富蔵」 1899年(明治32年) - 1984年(昭和59年)
宮城県出身。明治大学商科卒業後の1921年、仙台で
“おてんとさん社”を結成して、日本初の児童文学専門誌
「おてんとさん」を創刊するなど、児童文化活動の指導者
として活躍。野口雨情や山村暮鳥、竹久夢二、草野心
平、宮沢賢治、土井晩翠、永六輔、三大閨秀歌人とい
われた柳原白蓮・九条武子・原阿佐緒などと幅広い交流
関係をもつ。

1924年(大正13年)には同じく仙台市の文化横丁に郷玩
店「小芥子洞」を開業し、1928年(昭和3年)にこけしを
体系的に扱った日本初の文献「こけし這子の話」を上梓
して、東北限定の玩具・こけしを、全国的に著名な民芸品
に押し上げた。

1950年に仙台花柳界の中心地・本櫓丁に開いた郷土酒
亭「炉ばた」は、「炉端焼き」の発祥の店とされる。

(wikipedia)

天江富弥の功績

〈こけし這子の話〉の出版

- ① 東北のこけし産地を網羅する構想
- ② 系統分類の嚆矢
岩代キンヂヤマ系から陸奥温湯系まで7系統
陸前熊沢系は弥治郎系、新地系、堀田系に細分
- ③ 発生論に言及
おしゃぶり起源説
- ④ こけしの語源と方言
- ⑤ こけしの論評
作者経歴と作品の関係
こけしを研究対象として取り組んだ最初の人

以後のこけしの本は概ね上記のテーマをカバーし論及せざるを得なくなった。

③ 武井武雄 (明治27年-昭和58年) が開拓したもの

〈日本郷土玩具〉の出版

日本郷土玩具・東の部 (昭和5年1月)

合本 (昭和9年4月)

① 東北のこけし作者を網羅する構想

② こけし鑑賞という姿勢

こけしおよび作者の評価

例：滝ノ原 伊藤儀一郎 日本一

阿部治助 化けて出そうな薄穢い怪奇魅力

斎藤太治郎 支那人形らしいフレッユな美しさ

阿部金蔵 二寸級の豆こけしなど眼の中に入れても

菅原庄七 美しい童女の貌の描出は正にこけし界白眉の傑作

小倉嘉三郎 頭胴ともに梅を配してその繊細の美は他を圧している

新山久治 轆轤描彩でこれ程面白いものは他に類例が見出せない

佐藤慶治 おかめ鸚哥の様でとても可愛い



作者-作品-鑑賞という図式の設定者

④ 石井真之助 (明治26年生) が開拓したものの
こけし考古学への挑戦 (古いものへの執着)
黒くなった古いこけしを収集の対象に



東北の女学校の校長経由で、手紙作戦で蒐集した。

石井真之助の功績

深沢コレクション（日本こけし館）の黒こけし
大部分は石井真之助から譲られたものと思われる



それまで主流だった「現在作られているこけし」という枠をはずして
積極的に古物を蒐集するという新しい領域を提出した。

石井真之助

明治26年4月22日、石井重蔵、エイの長男として八王子市元横山町に生まれる。府立第二中学に入学、府立青山師範に転入。卒業後八王子の小学校に奉職。この頃より板碑に興味を持つ。大正7年26歳のとき、広島高等師範英語科に入学、大正11年卒業後、各地の学校の英語教師を務める。徳島高等女学校教師の時代に町内にいた鳥居龍蔵に板碑・考古学の指導を受ける。昭和2年愛知県西尾中学校に赴任、昭和3年36歳のとき〈こけし這子の話〉に感激し、こけし蒐集を始める。昭和6年ころ東北各地の女学校校長を通してこけし古品を蒐集する。昭和19年愛知県瀬戸高校女学校の校長に就任。昭和23年、女学校の教師と生徒の心中事件があり、その責任をとって辞任。郷里の八王子に戻り、高校講師等を勤める。昭和53年12月24日没、行年86歳。



手紙は週に3通ほど来た。



著書：絵馬精撰、板碑遍歴六十年



石井真之助

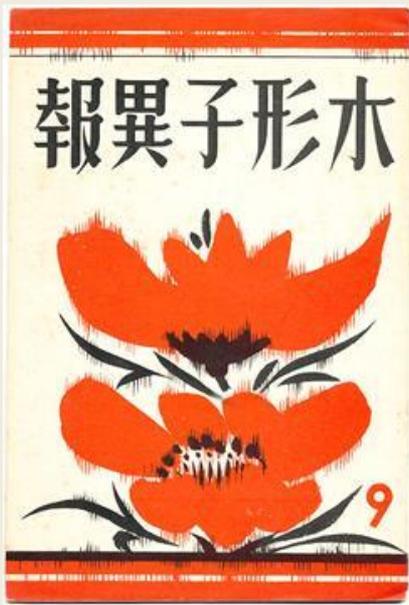
大沼誓

大沼新兵衛

⑤ 橘文策 (明治31年生) が開拓したものの

I 蒐集家の組織化

機関紙の発行： 木形子研究 (昭和7年) 12冊
木形子異報 (昭和9年) 12冊
木形子 (昭和13年) 9冊
木形子洞頒布 (会員への定期頒布)



同時期の頒布

- 柴田はじめ頒布 (昭和3年)
- 木村弦三頒布 (昭和9年)

⑤ 橘文策 (明治31年生) が開拓したもの

Ⅱ 現地訪問

昭和6年10月： 仙台・鳴子・遠刈田・鎌先・
弥治郎・白石・飯坂・土湯

昭和7年10月： 上ノ山・山形・及位・木地山・
川連・弘前・温湯・大鰐・
盛岡・花巻・鉛・一ノ関・
鳴子・酒田・鶴岡・肘折・
温海



高橋胞吉



小椋久四郎



橋
文
二

木人子閑話(28) 橘文二の青春

⑤ 深沢要 (明治37年生) が開拓したもの

産地と工人への執着

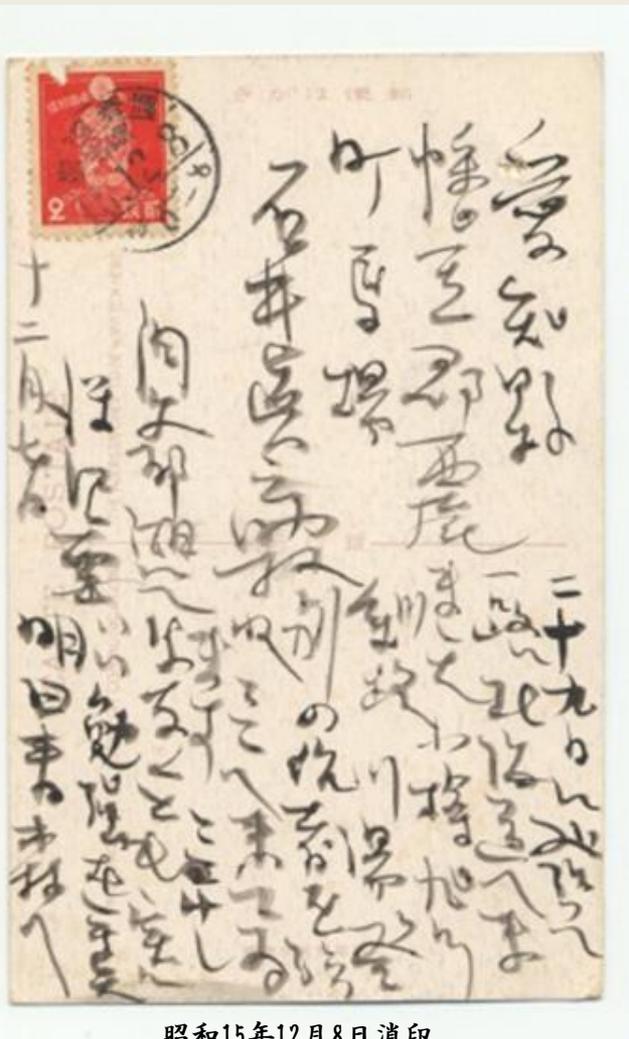
- 昭和九年秋：横山（「木形子異報8」）
- 昭和十年：天童（「こけしの微笑」）
- 昭和十二年秋：土湯（「こけしの微笑」）
- 昭和十三年四月：遠刈田（「こけしの微笑」）
- 昭和十三年六月：蔵王高湯、肘折（「木形子3」）
- 昭和十三年十月：福島、土湯、飯坂、白布高湯、米沢、山形、及位、湯沢（「木形子7・8」、「こけしの追求」）
- 昭和十四年三月：弥治郎（「こけし手帖17」）
- 昭和十四年四月：浪江、仙台、花巻、湯田、碓ヶ関、弘前、木地山、山形（「こけしの追求」、「木形子9」）
- 昭和十四年六月：鳴子、中山平、向町、作並（「こけし2」、「深澤書簡」）
- 昭和十四年八、九月：東根、新庄（「こけし手帖46」）
- 昭和十四年九月：滑津、稲子（「こけしの追求」）
- 昭和十四年十月初旬：東北こけし行脚（「こけし4」）
- 昭和十四年十一月：稲子（「こけしの追求」）
- 昭和十四年十二月：弥治郎（「こけし手帖17」）
- 昭和十五年一月：秋保、原ノ町、鯖湖（「こけしの追求」、「深澤書簡」）
- 昭和十五年三月：小原、川俣、米沢、瀬見（「こけしの追求」、「こけし手帖17」）

産地訪問

- 昭和十五年七月初旬：弥治郎、白布高湯、川俣、熱塩、鳴子（「こけし9」、「鴻1」）
- 昭和十五年七月下旬：須賀川、中山平、秋保、蔵王高湯、鳴子（「鴻2」）
- 昭和十五年八月中旬：仙台、鳴子、花巻、湯本（「鴻3」）
- 昭和十五年九月：盛岡、青森、温湯、弘前、鶴岡、蔵王高湯、釋迦堂（「鴻4」、「こけし手帖46」）
- 昭和十五年十一月中旬：蔵王高湯、弥治郎、米沢（「鴻6」）
- 昭和十五年十二月：小樽、旭川、釧路、川湯、登別洞爺湖（「こけしの追求」）
- 昭和十六年一月中旬：温海（「こけし13」）
- 昭和十六年二月初旬：鳴子（「鴻8」）
- 昭和十六年二月中旬：近江君ヶ畑、蛭谷（「鴻9」）
- 昭和十六年三月中旬：平、鳴子、一ノ関、大湯、角館、弥治郎（「鴻10」、「こけしの追求」）
- 昭和十六年六月中旬：鳴子、瀬見、岩代熱海（「鴻13」、「こけしの追求」）
- 昭和十六年八月上旬：飯坂、尾花沢、及位、花館、雲沢、湯本、鳴子、作並（「鴻13」）
- 昭和十六年八月下旬：芋沢、生出、福島、遠刈田、土湯、仙台（「鴻13」）
- 昭和十七年三月下旬：福島、飯坂、山形、酒田、鳴子（「鴻14」）

⑤ 深沢要 (明治37年生) が開拓したもの

産地と工人への執着 未見のこけしの発掘



昭和15年12月8日消印

大沼甚四郎を訪ねて
洞爺湖へ



昭和15年3月5日消印

佐久間奈松発見の報

深沢要の功績

- 現地調査
- 聞き書き 工人の個人史
 - こけしの作者を顔の見える人間に変えた
 - 職人から作家的存在への転換

社会人としての経済的自立より、
こけしにのめり込む事を重視すると言う
こけし愛好家の一つの典型を作った

それゆえ深沢要の生前の評価は
いつも毀誉褒貶相半ばしていた

深沢要の功績

- 戦後は深沢支持派が主流になり、こけし界の貢献者として評価が固まった（欣さんの功績も）



鳴子 こけし歌碑



コレクションの鳴子への寄贈

この頃（昭和14～15年ころ）起こった事

- こけしの二次流通の確立



「これくしよん参拾壹號」 吾八
（昭和十四年十一月）はこけし名作号
婢子会会員からの出品か？

婢子会（大正13年11月より15年8月） 関西で最も古い郷土玩具の集まり
同人：友野祐三郎、筒井英雄、黒田源次、尾崎清次、西原豊



「これくしよん参拾壱號」
誌上売り立て



二次流通の仕掛け人 山内金三郎

背景 阪急百貨店

昭和7年の売り場拡張に合わせて、「充美会」の結成と古美術品売場・茶室福寿荘の開設を行った。

充美会は大阪の名の通った古美術商十店（井上柳湖堂 池戸高山堂 晴海商店 戸田弥七商店 太田佐七商店 山中春篁堂 児島米山居 坂田作次郎商店 水原聴雨堂）による組織

その後主婦の友に勤めて挿絵を描く。

昭和十二年京橋区銀座西七丁目に第二次「吾八」を開店する。

<http://bokujinshi.info/kanwa27.htm>

「産地の工人から集める」

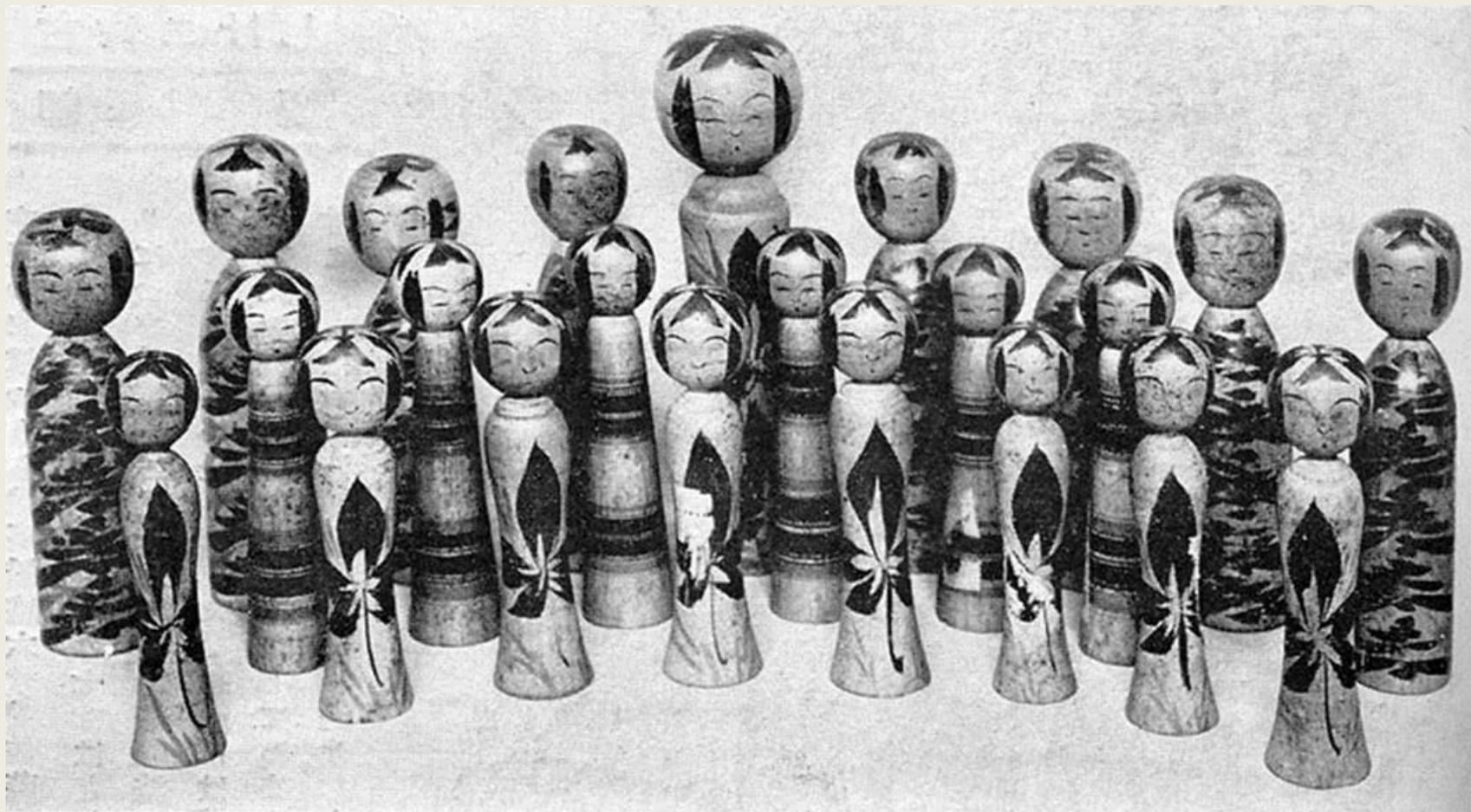
「頒布会に入会して集める」

「趣味の玩具店で入手する」

古品の価格も変わった

「古い蒐集家から新しい蒐集家にこけしが再流通する」

蒐集家が自分の眼を武器に勝負する時代が始まる



「これくしょん」45号（昭和16年）：
：蔵王高湯・岡崎長次郎、鳴子・高橋盛一家群像



「これくしょん」45号（昭和16年）：

左より岡崎長次郎二種、飯坂・佐藤栄治四種、高橋盛一家四種
誌上では長次郎が岡崎栄作名義、栄治が喜一名義になっている

二次流通の時代の蒐集家

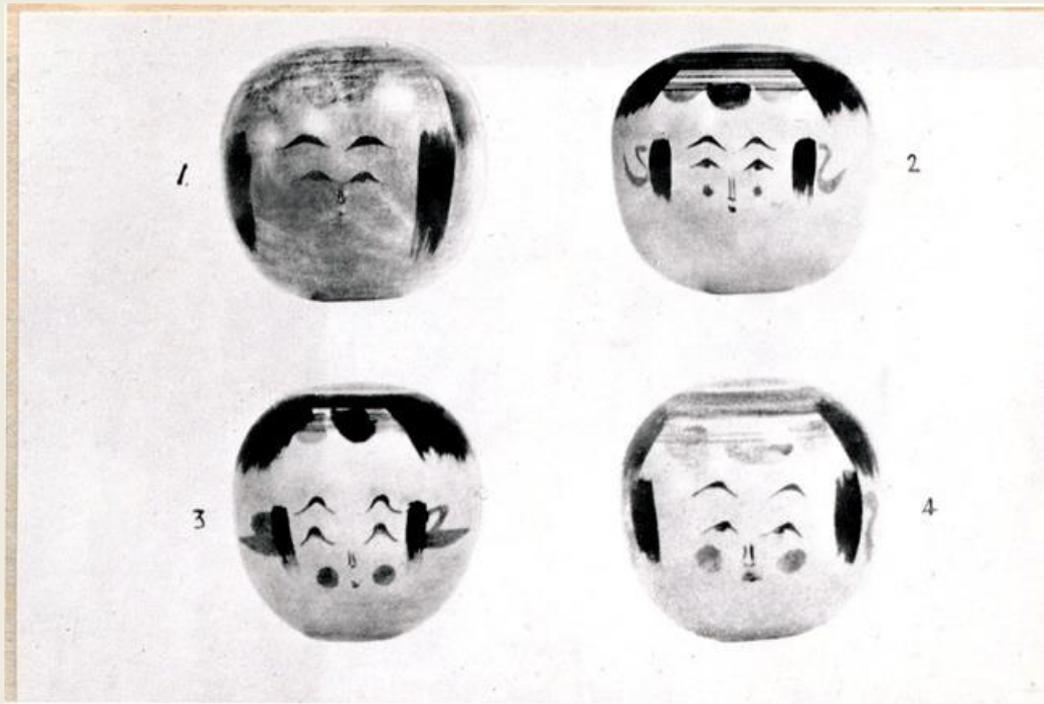
蒐集家が自分の眼を武器に勝負する時代が始まる

- 作者の鑑定
- 製作年代の鑑別

⑥ 渡辺鴻 (明治37年生か) が開拓したものの

二次流通の時代の雑誌 〈鴻〉の刊行

「木ぼこの鑑別」というコーナーを設けた。



1. 鶴松 2. 亀寿 3. 健康 4. 久雄 〈鴻・1〉



二次流通の時代の雑誌 〈鴻〉の刊行

「木ぼこの鑑別」というコーナーを設けた。



山形小林一家の胴模様 〈鴻・3〉



米浪庄弼

深沢要

杵岡良

米浪夫人

渡辺亜沙

セルソ・ゴメス

渡辺鴻

おけし園

昭和15年9月14日



渡辺亜沙

渡辺鴻

西田峯吉

セルソ・ゴメス

深沢要

茶房 鴻 昭和15年9月15日

二次流通の時代の蒐集家

蒐集家が自分の眼を武器に勝負する時代が始まる

- 作者の鑑定
- 製作年代の鑑別

作者、作品の出来が価値を大きく左右するようになる

以後蒐集家のもっぱらの関心事は、
こけしの価値の鑑別（価格設定）に集中していく

価値を決める因子として下記が議論されるようになった

- 工人個人史と作品の関係（工人の製作背景への関心）
- ピーク時期の同定（一作者の作品の価値の序列化）
- 名物の同定（こけし間の価値の序列化）

価値を共有するためのストーリー

こけしの価値の鑑別

〈鴻〉から流れ出た潮流は戦後にまで繋がった

みずき会 こけし研究ノート

昭和40年代の入札会ラッシュ

- 梅林新市、高山重城、枡岡良 備後屋
- 金井虹二 学習院同窓会館
- 野々垣勇吉 吾八
- 鈴木凡太郎 トラック会館
- 石井真之助 備後屋

こけし手帖 名品こけしとその工人

こけし鑑賞

こけし辞典

木の花 連載覚書

- ひやね、忠蔵庵、ネットオークション

談話会

二次流通 ⇒ 三次、四次流通へ

- 
- ⑦ 渡辺鴻(明治37年?生) ・ こけしの二次流通時代への対応
-
- ⑥ 深沢要(明治37年生) ・ 工人個人史への関心 産地訪問への執着
・ 顔の見える工人像(工人追求)
-
- ⑤ 橘文策(明治31年生) ・ 蒐集家の組織化 頒布会 機関紙の定期発行
・ 木地師、民俗への関心の拡大
-
- ④ 石井真之助(明治26年生) ・ こけしの発掘 アルケオロジーへの関心
-
- ③ 武井武雄(明治27年生) ・ こけしの評価 評論の対象
・ こけしの出来について識別
-
- ② 天江富弥(明治32年生) ・ こけし作者、系統の識別
・ 呼称の起源 方言区
-
- ① 竹馬会・集古会時代 ・ こけしという人形玩具のカテゴリー
・ 産地の識別

こけし蒐集の進展

(付録) こけしブームの背景

第一次こけしブーム (昭和15年頃)

第二次世界大戦 日独伊三国軍事同盟 太平洋戦争
⇒ 戦争の時代へ

第二次こけしブーム (昭和40年代)

イタイイタイ病 公害 70年安保 ニクソンショック
オイルショック ⇒ 高度成長の終焉

第三次こけしブーム (平成20年代)

高齢者社会 少子化 格差社会 過疎地域
不安定な国際情勢 ⇒ 戦後の秩序の限界

社会不安が一定レベルに近づく時期に
“こけしブーム”は起こる

(付録) こけしブームと新世代

第一次こけしブーム (昭和15年頃)

深沢要、渡辺鴻 (ほぼ40歳)

西田峯吉 (ほぼ45歳) 鹿間時夫 (ほぼ33歳)

第二次こけしブーム (昭和40年代)

箕輪新一、橋本正明、高橋五郎 (ほぼ20代前半)

一金会の古参メンバー (20代から30代)

第三次こけしブーム (平成20年代)

今の30~40代

ブームの時代に次の世代に
繋ぐひとの養成が行われる

こけしを日本遺産に

日本がリオ五輪で、盛り上がりを見せていましたが、メダルのせいばかりではなく、これは東京五輪に向けての助走とあってよいでしょう。そして日本政府は2020に向けて100の日本遺産を作ることをめざしています。現在までに57件の日本遺産が認定されています。日本遺産は日本の伝統文化を語る、ストーリーを認定し、地域の文化財を点から面への展開として、保護でなく活用を目的としています。その地域に根差して継承保存され、受け継がれている伝承・風習を踏まえたストーリーであることが必要です。

認定されれば京都府が申請して、認定された「日本茶800年の歴史」などと共に、持ち帰ることの出来る日本遺産として、国家戦略である、インバウンド対策としても、大きく貢献でき、また東北の活性化にも期すると思われれます。現在この運動を展開しております、ご支援のほどお願いいたします。 箕輪新一・橋本正明・鈴木康郎・池上明



A

